

各 位

会 社 名 株式会社 クロニクル  
 代 表 者 名 代表取締役会長 天 野 裕  
 (JASDAQ・コード番号： 9822)  
 問い合わせ先 取締役管理本部長 久保田 峰夫  
 電 話 番 号 0 3 - 5 7 7 1 - 1 2 0 0 (代表)

営業外損失の発生、特別損失の発生及び平成 22 年 9 月期通期（連結・個別）の業績予想と実績値との差異  
 に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 9 月期において営業外損失、特別損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。また、営業外損失、特別損失の発生等に伴い、平成 21 年 5 月 12 日に公表いたしました平成 22 年 9 月期通期の業績予想に対して差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結の営業外損失の発生及びその内容

平成 22 年 9 月期において、急激な為替相場の変動の影響により為替差損 54 百万円を計上、貸倒引当金の繰入で 10 百万円を計上したこと等により連結の営業外費用として 72 百万円を計上することといたしました。

2. 特別損失の発生及びその内容

(1) 連結の特別損失の発生について

平成 22 年 9 月期において、子会社で、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなる資産グループについて減損損失を認識したため、減損損失 112 百万円を計上、固定資産除却損の計上 9 百万円、貸倒引当金の繰入で 294 百万円を計上したことにより連結の特別損失として 417 百万円を計上することといたしました。

(2) 個別の特別損失の発生について

平成 22 年 9 月期において子会社株式評価損が 101 百万円発生したこと及び貸倒引当金の繰入で 294 百万円を計上したことにより個別の特別損失として 396 百万円を計上することといたしました。

3. 平成 22 年 9 月期通期連結業績予想と実績値との差異

(平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (平成 22 年 5 月 12 日発表)	百万円 3,600	百万円 △650	百万円 △550	百万円 △500	円 銭 △1.12
今回実績値(B)	3,509	△648	△690	△893	△2.00
増減額(B-A)	△91	2	△140	△393	—
増減率(%)	△2.5	—	—	—	—
前期実績(平成 21 年 9 月 30 日)	3,656	△656	△763	△2,389	△5.34

#### 4. 平成22年9月期通期個別業績予想と実績値との差異

(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (平成22年5月12日発表)	百万円 160	百万円 △400	百万円 △450	百万円 △400	円 銭 △0.89
今回実績値(B)	99	△283	△408	△581	△1.30
増減額(B-A)	△61	117	42	△181	—
増減率(%)	△38.1	—	—	—	—
前期実績(平成21年9月30日)	279	△489	△640	△2,017	△4.51

#### 5. 業績予想との差異が生じた理由

##### (1)平成22年5月12日発表の業績予想との差異について (連結)

(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

事業種別	当初予想値 (百万円)	実績値 (百万円)	増減率 (%)
宝飾品事業	750	802	6.9
投資事業	150	75	△50.0
WEB情報事業	2,700	2,520	△6.7
リサイクル事業	—	3	—
サービス事業	—	107	—
合計	3,600	3,509	△2.5

今回の業績予想との差異に関して大きな変動要素として、特別損失の発生によるものであります。

##### 「宝飾品事業」

現在、当社グループでは株式会社アメイジングバリューのリセール・オークション事業と株式会社ドゥーズによる正規品販売事業及びジュエリー販売事業への住み分けを明確にし、国内外へ積極的展開を行っております。

宝飾品事業は、国内小売が回復基調に推移したことにより売上高は前回の予想より6.9%上乘せとなり802百万円となりましたが、利益性の低下並びにリセール・オークション事業における商品評価損の売上原価組み入れ等により営業利益は伸びませんでした。

##### 「投資事業」

投資事業は、第3四半期以降に国内投資有価証券の売買を手控えたため、前回の予想より大きく下回り50%減の75百万円となりました。

##### 「WEB情報事業」

WEB情報事業におきましては、売上高は前回の予想を若干下回る2,520百万円となりました。

以上の結果、売上高は3,509百万円、営業利益は概ね予想どおりの△648百万円、経常利益は為替差損、貸倒引当金繰入により△690百万円、当期純利益は減損損失と固定資産除却損、貸倒引当金繰入等により△893百万円となりました。

(2) 平成 22 年 5 月 12 日発表の業績予想との差異について（個別）

個別におきましても投資事業及び関連子会社からのマネージメント報酬が中心となるため、関連子会社の収益率の低下により、当初予定しておりましたマネージメント料が減少致しました。

その結果、売上高 160 百万円を大きく下回り、38.1%減の 99 百万円となりましたが、営業利益におきましては当初予想の△400 百万円を圧縮し△283 百万円、経常利益におきましても、当初予想の△450 百万円を圧縮し、△408 百万円、当期純利益におきましては子会社株式評価損と貸倒引当金の繰入等により△581 百万円となりました。

なお、本資料に記載の予想数値は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上